

1-6

演題	入浴・トイレ拒否の多い方への取り組み
副題	～ユマニチュード技法の実践、評価～

認知症

法人名	社会福祉法人 麗寿会
施設名	ふれあいの泉

発表者名 (職種)	棚原 明久 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	伊藤 力太	住所	鎌倉市今泉 2-10-1
共同発表者		TEL	0467-46-9811
共同発表者		FAX	0467-42-7036
共同発表者		メールアドレス	izumi@reijukai.or.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	ユニット型特養、長期 74 名、短期 10 名 法人として認知症ケア向上のため認知症ケア推進委員会を立ち上げユマニチュードの実践を 柱として取り組みを行っています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

BPSD（介護拒否）がある利用者様に対しなぜ介護拒否が多いのか、職員皆で考え、NPI 評価尺度・ユマニチュードを用いて実践・効果を検証していく。認知症の利用者様の立場になってケアできているか実践をとらえてその結果をまとめました。

取り組んだ課題

朝方・夜間は介護拒否少なく日中になると入浴・トイレ拒否など介護拒否が多い利用者様に対しどうアプローチ・ケアすれば安心して快適な生活が過ごせるか考えました。
その取り組みについて紹介します。

具体的な取り組み

- ① ユニット職員の中で困っていることあげて頂き、職員間で課題を共有し対象者を決める。
- ② 課題のある対象者について、現在どういうケアをしているか、率直な意見を出して頂く。
- ③ 現在のケアの仕方に問題ないか環境面も含め考え、意見を出して頂いた後、今一度ユマニチュードの実践・NPI 評価尺度用いて、フロア全体で実践行っていく。
- ④ 約 1 ヶ月弱実践行う。まず最初の 3 週間実践行い、ユニット職員で振り返り再アセスメント行う。ケアの仕方や変更点も出し、4 週目以降実践行う。実践前と実践後 NPI 評価をユニットリーダー・ユニット職員で行う。ケア記録の用紙も作成し、どういう反応があったかも書いて頂く
- ⑤ 約 1 ヶ月弱実践を行った後、どういう結果・効果があったか検証・評価をユニットリーダー含め行っていく。

活動の成果と評価

- ・約 1 ヶ月弱ユマニチュード実践・統一したケアを行う事によって介護拒否、トイレ・入浴拒否の回数は大きく減りました。(実践前 2 週間で 17 回声かけし、10 回拒否。実践期間中 1 ヶ月弱で 58 回声掛けし 17 拒否)笑顔の表情も増えました。
- ・実践前は職員が立った状態で声掛けすること多く、

周囲の環境にも配慮できてなかったユマニチュードの 4 つの柱「見る」「話す」「触れる」ができてなかった。

- ・実践前は A 様が不安を感じ行動や態度がそのまま出ていたことがわかった。
- ・A 様の不安を取り除く事によって、信頼関係を築けることがわかった。
- ・声かけを工夫するなどして入浴に行きやすい雰囲気をつくるのも大事でした。ただ声かけするのではなく好きな食べ物の話や昔話をすることによって表情が穏やかなになり入浴・トイレに行きやすくなりました。

今後の課題

職員が A 様に対し「今日はこういう感じだからしょうがない」と思うのではなくその原因は何か職員皆で考え普段の何気ない表情や行動を見逃さない事が大事である。例として他の利用者様のご家族様が多く来た日などは表情が陰しく落ち着かない事多いので、気分転換に一緒に窓の方に行き桜を見に行ったり、一緒に 2 人でお話したり A 様の気分を変えるなどの A 様の気持ちに寄り添う事が重要。また普段の何気ない会話・笑い話（ジョーク）などでも信頼関係が築けるので、信頼関係を築くことによってユマニチュードがより活かせる事がわかった。まずは A 様に職員の思いを伝え、わかってもらうことがケアの第一歩である。

参考資料など

ユマニチュード入門